

## 「二重国籍者への勧め(1)」

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ①1~8章が教理
- ②9~11章がイスラエルの救い
- ③12~16章が適用

#### (2) これまでに学んだ12章の内容

- ①献身の勧め(1~2節)
  - ②謙遜の勧め(3~8節)
  - ③愛の勧め(9~16節)
- アンケートの紹介

#### (3) 13章は、二重国籍者への勧めである。

- ①国家との関係(1~7節)
- ②愛の律法(8~10節)
- ③決断の時(11~14節)

\*以上の勧めは、「生けるいけにえ」になった人に対するものである。

\*勧めの内容は容易に理解できる。

\*その周辺の情報や議論が、重要である。

### 2. アウトライン

命令：権威への服従(1節a)

理由①(1b~2節)

理由②(3~4節)

理由③(5~7節)

### 3. メッセージのゴール

#### (1) 権威への抵抗の可能性

このメッセージは、信者と国家の関係について学ぼうとするものである。

命令：権威への服従

1. 1節 a

「人はみな、上に立つ權威に従うべきです」

(1) 12:1は、勸告であった。

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします」

(2) ここでは、「従う」は、現在形、受動態、命令形である。

「Let every soul be in subjection to the higher powers.」

(3) 「人はみな」は、「プシケイ」(魂)であって、霊ではない。

①信者も未信者も、この命令に従うべきであるということ。

(4) 「従う」は、「ヒュポタソウ」という動詞。39回出てくる。

①テト3:1 信者の政治権力への従順

「あなたは彼らに注意を与えて、支配者たちと權威者たちに服従し、従順で、すべての良いわざを進んでする者とならせなさい」

②コロ3:18 妻の夫への従順

「妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい」

③1ペテ5:5 若者の長老への従順

「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです」

④共通しているのは、神の權威への服従であり、祝福のためである。

2. ローマ帝国内でのキリスト教会

(1) 皇帝はいつでも、誰の命でも奪うことができた。

①マタ2:16~18 ヘロデ大王は、ベツレヘムにいた2歳以下の子を殺した。

②マコ6:14~29 30年後、ヘロデの息子ヘロデ・アンテパスは、バプテスマのヨハネを殺した。

③帝国内では、人の運命は不安定なものであった。

(2) 新約聖書と初代教会に関係のある皇帝

①アウグスト(BC27~AD14年)

\*ルカ2:1 全世界の住民登録を命じた皇帝

②テベリオ(ティベリウス)(14~37年)

\*ルカ 3:1

「皇帝テベリオの治世の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの国主、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ地方の国主、ルサニヤがアビレネの国主であり、アンナスとカヤパが大祭司であったころ、神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った」

③カリギュラ (37~41年)

- \*キリストの復活と教会誕生の数年後に皇帝になった。
- \*ローマに信者はいたであろうが(使2:10)、迫害はなかった。
- \*ユダヤ教は公認宗教であり、キリスト教はその一派とみなされた。
- \*エルサレム神殿に自分の像を建てようとしたが、ユダヤ人の反対に会った。
- \*即位の半年後に気が狂い、親戚のほとんどを殺した。
- \*食事をしながら人々を拷問にかけ、殺した。
- \*愛馬をカウンセラーにした。
- \*自分を神と宣言し、諸神殿を建てたが、近衛兵によって殺害された。

④クラウデオ(クラウディウス)(41~54年)

- \*カリギュラの叔父
- \*48年、妻のメッサリーナを殺し、姪の小アグリッピナ(カリグラの妹)と再婚。54年に、彼女によって毒殺された。
- \*49年、ユダヤ人をローマから追放した。
- \*使18:2

「ここで、アクラというポント生まれのユダヤ人およびその妻プリスキラに出会った。クラウデオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命令したため、近ごろイタリヤから来ていたのである。パウロはふたりのところに行き、」

⑤ネロ(54~68年)

- \*パウロがロマ書を書いたのは、ネロの時代である。57年頃。
- \*15歳で皇帝になり、22歳で母を殺した。
- \*3年後に離婚し、妻を殺した。
- \*64年のローマの大火の責任を、クリスチャンに負わせた。

(5) パウロは、不信者の政府、神なき組織にも従うように命じている。

理由①:すべての権威は神によって立てられているから

1. 1b 節

「神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです」

(1) 箴8:15

「わたしによって、王たちは治め、君主たちは正義を制定する」

(2) ヨハ19:11

「イエスは答えられた。『もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです』」

(3) いかなる方法で権威が誕生したのかは、問題ではない。

①現代の民主主義国家では、選挙という方法が取られる。

②国家権力は、民に安全と祝福をもたらすための神の方法である。

2. 2 節

「したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにもとめられているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます」

(1) 権威に逆らうことは、神の定めにもとめられていることである。

(2) そむいた人は、自分の身にさばきを招く。

①定冠詞の「the」がない。

②必ずしも終末的なさばきではない。

**理由②：自分自身の祝福のため**

1. 3 節

「支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行いなさい。そうすれば、支配者からほめられます」

(1) 支配者が神の意図に従って政治(統治)を行うことを前提に話している。

①悪人は、支配者を恐れる。

②善人は、恐れる必要はなく、支配者の保護を受ける。

2. 4 節

「それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなた

が悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います」

(1) 不信者であっても、神のしもべとしての役割を果たしている。

①「神のしもべ」という言葉は、「神」に強調がある。

(2)「剣」とは、執行する力である。

①12:19の復讐禁止命令と矛盾しない。

②個人的復讐は、憎しみから出る。公の報いは、善と平和を保持するためのもの。

### 理由③：自分自身の良心のため

#### 1. 5節

「ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです」

(1) 良心の問題として、権威に服従する。

①キリストに弟子にとって、最も大切な行動原理となる。

②後になって心が痛むようなことはしないということである。

#### 2. 6~7節

「同じ理由で、あなたがたは、みつぎを納めるのです。彼らは、いつもその務めに励んでいる神のしもべなのです。あなたがたは、だれにでも義務を果たしなさい。みつぎを納めなければならない人にはみつぎを納め、税を納めなければならない人には税を納め、恐れなければならない人を恐れ、敬わなければならない人を敬いなさい」

(1) 権威に従順である3つの例

①「みつぎ(貢)」(tribute)とは、人頭税。

②「税」(custom)とは、物品税。

③「敬意」とは、心の税と考えるとよい。

### 結論：権威への抵抗の可能性

#### 1. 権威は神によって立てられていることを再確認する。

(1) ダニ2:21

「神は季節と時を変え、王を廃し、王を立て、知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる」

(2) ダニ 2:31~35

「王さま。あなたは一つの大きな像をご覧になりました。見よ。その像は巨大で、その輝きは常ならず、それがあなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。その像は、頭は純金、胸と両腕とは銀、腹とももとは青銅、すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。あなたが見ておられるうちに、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と粘土の足を打ち、これを打ち砕きました。そのとき、鉄も粘土も青銅も銀も金もみな共に砕けて、夏の麦打ち場のもみがらのようになり、風がそれを吹き払って、あとかたもなくなりました。そして、その像を打った石は大きな山となって全土に満ちました」

①純金の頭：バビロン帝国

②銀の胸と両腕：メド・ペルシヤ連合帝国

③青銅の腹ともも：アレクサンドロスのギリシア帝国

④第4の帝国：帝国主義（ローマ帝国以上のもの）

\*統一王国の時代

\*二国に分裂した時代

\*十国に分裂した時代

⑤山：メシア的王国

\*人手によらない

\*切り出された一つの石は、メシアである。

2. 権威は、神によって与えられた使命から逸脱する可能性がある。

(1) 「権威」とは、「エクサーシア」である。

①エペ 2:2

「そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました」

②墮天使と関連した言葉である。

③サタンは、権威が神に反抗した究極の例である。

(2) そのような場合、権威に従うなら、それは信者の使命を放棄したことになる。

①ポーランドのクリスチャンたちは、ユダヤ人をかくまわなかった。

②ヒトラーは、ロマ書 13 章を根拠に、教会に国家への従順を要求した。

3. 聖書に記された権威に反抗した例

(1) 出 1:15~17 神を恐れたユダヤ人の助産婦たち

(2) 使4:19~20

「ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。『神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません』」

(3) 使5:29

「ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。『人に従うより、神に従うべきです』」

4. パウロの心

(1) 教会を支配する論理を、敵に与えるために書いたのではない。

(2) 彼の心の中にあつた確信

- ①宣教のための秩序
- ②地上の支配者は過ぎ去る。
- ③しかし、信者に与えられたメッセージは、永遠に続く。
- ④ペテロは、ネロの迫害によりローマで殉教した(エウセビオス『教会史』)。
- ⑤パウロもまた、67年頃、ネロの迫害によって殉教したと言われている。
- ⑥「生きたささげもの」となった。

(3) コンスタンチヌス帝の時(313年のミラノ勅令)に、キリスト教が公認。

- ①これが教会にとってよかつたかどうかは、分からない。

5. 私たちへの適用

(1) 地上の権威に従う。

(2) しかし、その権威が神に反抗する場合は、声を上げ、抵抗する。

(例話) 杉原千畝氏

(例話) デートリッヒ・ボンヘッフアー